

AMCWA会報



NPO法人 アジア母子福祉協会

東京都品川区西五反田2丁目15番7号

ジブラルタ生命五反田ビル3F-ITL

mail: tokyo@amcwa.org tel/fax: 03-6424-5681

支援活動の継続・発展へ

—「血の絆」上映会も—

アジア母子福祉協会理事長 寺井融

アジア母子福祉協会（AMCWA）の創立は2000年3月31日。来春で25年の歴史を持つNPO法人である。ミャンマーやマダカスタルの福祉や教育などの向上・発展のため活動を展開してきた。私個人の関わりを含めて歴史を振り返ってみたい。

1982年9月、当時ビルマと言われていたミャンマーを初訪問。南北問題日本委員会（大北佐武郎委員長）がアジアに調査員を派遣する際、当方はビルマ式社会主義の国を希望したからで、ラングーン（現ヤンゴン）やマンダレーの電力事情はさきわめて厳しく、タクシーもほとんど走っておらず、人力車が庶民の足だったことを覚えている。

1988年8月、「ラングーン騒乱」が起き反政府指導者としてアウンサンスーチー女史が登場する。

一方、事態を収拾させた軍政権は、統制経済からの転換をはかり、一定の経済成長を果たしていく。

私は1993年1月、ビルマからミャンマーと国名を変えた同国を11年ぶりに再訪問。その見聞記を月刊誌に発表したところ、当時永野茂門参議院議員の公設秘書だった長野俊郎氏の目にとまり、ミャンマーの新しい動きを分析し、発展への提言をする目的のミャンマー研究委員会へ、お誘いを受けた。

主宰はPHP研究所。初代委員長が岡崎久彦元タイ

大使で2代が山口洋一元ミャンマー大使である。委員は学者、研究者、官僚、マスコミ人と幅広く、旧日本軍の南機関員の泉谷達郎さん（「ビルマ独立秘史」著者）も参加していた。羽田孜元総理も顔を出していたこともある。

委員会ではゲストを招いて研究会を開いたり、「提言」を発表したりしていたが、1999年末で解散することとなった。それまでの活動を生かして行こう、ミャンマーの発展のため寄与して行こうと、新たに発足させたのが当協会である。トルコ、マダカスカル、ミャンマーなどで大使を歴任された山口洋一氏が初代理事長を務め、本年5月に当方に交代した。

その間、ミャンマー母子福祉協会（MMCWA）幼稚園のメンテナンスや児童養護施設（孤児院）サマタン園などへの支援、里親制度（現在は休止中）や奨学金の支給など福祉・教育支援、さらにマダカスカルでの植樹などを展開してきた。

これらは、今後も継続・発展させて行きたい。

それらとともに来春、25周年事業として 故・千野皓司監督の日緬合作映画「血の絆」の上映会を企画している。同監督は生前、当協会理事であり、（一社）日本ミャンマー友好協会の理事長も務めておられた。同作品は201分の大作。それがため公開が日緬両国の一部だけにとどまっている名作である。ご期待いただきたい。



マダガスカル 石原晃基金で新展開へ

アジア母子福祉協会
専務理事 柳澤信一郎



AMCWA 活動への日頃のご支援、誠にありがとうございます。

さてマダガスカル支援に新展開です。AMCWAでは近年、首都駐在の原田会員のご尽力で現地自然保護活動家アジャさんと首都南方約80kmのアンバトランピ児童園で約4000本の在来樹植樹や食品等の支援を行ってきました。

昨年度は植樹用地がなくなり、食料等の支援と約70のランドセルを贈呈しました。（写真は男子）

今年度は児童園樹木の手入れ、補植等のメンテナンスと食料支援を行うとともに、ベッド・マットの更新費用の一部を支援する予定です。

そして、次の植樹地としてさらに300km余り南で比較的似た気候の場所で可能性が出てきました。これまで協力隊OVの櫻井さんが地元NPOと組んで4000本ほどの竹を地元の人たちの力で植えてきたところ。弊会と連携・分担方法について

の詳細を固め、来年度、本格的に始動します。

アンバトランピ児童園からも苗木が供給できればと思います。児童園のインフラ整備を続ける意味もより大きくなります。

★石原晃基金の創設★

以上の取組みを着実に進めるためには皆様の一層のご支援が欠かせません。そこで弊会専務理事としてマダガスカル活動の中心だった故石原晃さんの名前を冠する石原晃基金を創設します。

石原さんのお嬢さんでマダガスカルへの思いが強い阿部雅玖さんの全面的賛同を得ています。

石原晃基金は毎年、マダガスカル支援の寄付を従来以上に強力に広報・獲得し、それをもとに植樹や児童園支援をスピードアップしていくためのものです。収入と費用をより具体的にお知らせしますのでぜひご一緒に育ててください。

◎銀行口座が新しくなりました。◎

三菱UFJ銀行 麹町中央支店 普通 0235788

特定非営利活動法人アジア母子福祉協会
寄付用途を特定される場合は、マダガスカル支援は「マ」ミャンマー支援は「ミ」をお前の後に。

ミャンマーへの思い

アジア母子福祉協会

常務理事 山田 雅利



海外経験は二十年以上前の新

婚旅行のみという海外素人である私が、2024年3月に会社より海外を担当するよう命じられたことは、まさに晴天の霹靂でした。

慌ててパスポートを取得し、予防接種を受けて、ビザを取得し、どうにか6月にミャンマーを訪問することができました。

ミャンマー国内の内戦が激化しているという国内の報道と、野犬に気を付けて！という現地からのアドバイスを受け、いくばくかの緊張感を持って入国いたしました。

空港からの車中、街並みの片隅に佇む兵隊に緊張感を覚えつつ、車も人も頻繁に行き交うヤンゴン市内は、内戦が起こっているとは思えないほど

平穏で、私の想像は良い意味で裏切られました。

マクロの話をするれば、2010年頃、アジア最後のフロンティアと言われたミャンマーに多くの日本企業が進出したものの、2020年のコロナ禍、翌2021年のクーデターにより状況は一変。国軍と少数民族の武装勢力が戦い、軍政に対する世界各国からの経済制裁による資源不足、通貨価値の下落とインフラと、さらには2024年2月の徴兵制の導入と、心身ともに疲弊した国という評価になると思います。

ただし、私の接したミャンマー人は、そのような状況の中、笑顔を絶やさず、穏やかに私を出迎えてくれました。

彼らの優しい眼差しに、どのようなミャンマーの将来像が映っているのか、私には知る由もありませんが、一刻も早く、政情が落ち着き、国民の安全と安定した生活が実現することを切に願ってやみません。

ミャンマーとの縁

アジア母子福祉協会

常務理事 山根 史子



この度、アジア母子福祉協会の理事を務めさせていただくこととなりました、埼玉県議会議員の山根史子と申します。先輩の皆様よりご指導をいただきながら精一杯努めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

アジア母子福祉協会との出会いは、一昨年亡くなった私の父であり、元外務副大臣の山根隆治からの紹介です。父は協会の活動や熱意を持って活動に取り組まれる会員さんの話、父も訪問したミャンマーの政治情勢や街の状況などよく話を聞かせてくれました。

そして、私は2018年2月11日から15日迄3泊4日の行程でミャンマーの地を初めて訪れることになりました。当時作成した、報告書を見直すと4日間で6箇所の視察とMMCWA本部や関係する省庁との意見交換4つというとてもハードなスケ

ジュールだったなと思います。しかし、そのどれもが私にとって大変貴重な経験となりました。

一つご紹介したいと思います。最大都市ヤンゴンでダウンタウンから日本が寄贈したフェリーに10分程乗った所にあるダラ地区は光景が一変します。私たちが訪ねた一般家庭の家屋は、高床式で4畳ほどの広さ2間に8人が暮らしていました。生活水は、近くの沼で汲み上げられた茶色く濁ったもので乳児も飲んでる様子でした。

収入源はフルーツの小売や自転車タクシーで借金をして機材を揃えその日の売り上げから返済し残りが収入だそうです。

非常に不安定そうに見えますが「滞ることはない」と住民の方はいいます。また、インフラ整備が整っていない中でも若者がスマートフォンは持っていることに驚きました。仕事で使う必需品だそうです。

私が訪れた時から政治情勢がまた大きく変わりました。現地の住民の皆さんがどう過ごされているのか、子供たちの生活や教育環境がどうなっているのか、気がかりです。

引き続き、アジア母子福祉協会の一員としてどんな支援ができるか会員の皆様と共に考え実行していきたいと思っています。

★総会開催★ 5月18日土曜日午後2時より、日比谷の国際ビルにて総会を開催し、活動報告、決算、会計監査及び活動計画、予算と役員人事が討議され、すべて承認されました。詳しくはホームページをご覧ください。